

政治学研究科政治学専攻

【教員養成の目標】

政治学研究科政治学専攻修士課程では、高度専門職業人としての学問的基礎を修得し、自立して問題解決に当たることができる能力を備えた人材の養成を目標としており、教員養成においては以下の能力を有する教員を養成する。

1. 理論・歴史・政策から構成される政治学・行政学分野において専門的な知識や研究分析技能を習得し、社会の課題を解決しようという意欲や実践力を有している教員
2. 政治や行政における現実の課題を探求しようとする力と研究分析する応用力を習得し、解決策を生み出す柔軟な思考力を有している教員
3. 現代社会の課題に対して正義感や公徳心を有し、政治学・行政学分野の基礎知識から最新の研究まで修得し、それらの知見を社会の役に立てようとする見識と能力を有している教員
4. 世界各国の多様な歴史や文化に配慮し、問題解決のために各国の関係者や研究者とも協働しながら、日本や世界が抱える複雑な政治・行政課題に取り組む意欲を有している教員

【当該目標を達成するための計画】

政治学研究科政治学専攻修士課程の教員養成の目標を達成するために、政治学及び行政学分野に関する高度の専門知識や研究分析技能を習得できるよう教職課程を編成する。

修士課程では、政治理論や政治思想などの理論や歴史研究を中心に研究する「政治理論・政治史科目」、政治制度や行政体制などを中心に研究する「憲法・行政科目群」、国際政治や各国の政治や文化などを中心に研究する「国際政治・地域研究科目群」の3つの基礎科目群を設置していることに加え、それらの基礎科目を専門的に学べるように、3つの基礎科目群の下に「近現代政治特殊研究科目群」、「公法・行政特殊研究科目群」、「国際政治・地域研究特殊研究科目群」の特殊研究科目群を配置しており、教職課程においても高度専門職業人養成を前提にした主体的かつ対話的な深い学びへと繋がることのできるようカリキュラム編成をおこなう。

また、教職に就くことを希望している学生に対しては適宜面談をおこない、学生のニーズや適性に応じた個別的指導をおこなう他、教職課程運営センター等の学内関係組織と連携をとりながら定期的に指導をおこなうことにより、教員としての力量を高める。